

2026

5.27

(水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_c5NkOBOOSF2ueWJpTQLF-w

【技術支援】九州大学 Q-AOS

アクセシビリティのためのデザイン： 人間的・文化的・社会的要因



Key Words

アクセシブルデザイン

ユニバーサルデザイン

人間工学

ヒューマンファクター

文化と社会

エロイザ セラチュキ フロレス 助教

九州大学アジア・オセアニア研究教育機構

セラチュキ・フロレス・エロイザ（工学博士 / PhD）は、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構（Q-AOS）の特任助教であり、同大学大学院芸術工学府にて研究に従事している。ブラジル出身で、九州大学大学院芸術工学府において文部科学省（MEXT）奨学金留学生として修士課程および博士課程を修了した。在学中には、Woman in Digital Human Modelling Award（2023）や芸術工学府研究優秀賞（Dean's Award, 2025）などを受賞している。研究分野は、ヘルスケアデザイン、アクセシブルデザイン、バイオメカニクス、人間工学を中心とし、文化、芸術、医療、ウェルビーイングを横断する学際的研究に取り組んでいる。現在は、日本およびフィリピンにおける医療アプローチとサービス提供の比較研究を行い、実装上の課題の特定に焦点を当てている。本研究では、コ・デザインおよび参加型アクションリサーチの手法を用いている。また、国際プログラムや異文化間コミュニケーションを含む教育活動にも継続的に関与している。

アクセシビリティはしばしば技術的な問題として捉えられるが、実際には人々、文化、そして日常の文脈によって形作られている。本講演では、デザインが単なる機能性を超え、どのように人々の実際の経験を反映できるのかを考察する。ヘルスケア、義肢、サービスデザインの研究をもとに、ユーザーが日常生活の中でどのように機器や技術と関わるのか、また社会的・文化的要因がそれらの採用や放棄にどのように影響するのかを検討する。さらに、異なる国の事例を通じて、スティグマ、ユーザビリティの課題、インフラの不足など、身体的要因にとどまらない障壁の特定方法を示す。また、コ・デザインや参加型アプローチを通じて、ユーザーが解決策の形成に関与する方法についても取り上げる。人々が自身の環境で技術とどのように関わるかに着目することで、アクセシビリティを共有されながら、進化し続けるプロセスとして捉え、科学的知見を社会的インパクトのある解決策へとつなげる可能性を示す。